

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（教育学）	氏名	井本 美穂
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目			
19—20世紀転換期日本のキリスト教系幼稚園における音楽活動に関する研究 —米国との関わりに着目して—			
論文審査担当者			
主査	教授 枝川 一也		
審査委員	教授 七木田 敦		
審査委員	教授 鈴木 理恵		
審査委員	准教授 大野内 愛		
審査委員	教授 三村 真弓（エリザベト音楽大学）		
〔論文審査の要旨〕			
<p>本研究は、19世紀末から20世紀初期の日本のキリスト教系幼稚園における音楽活動の特質について明らかにすることを目的としている。日本のキリスト教系幼稚園では、米国から来日した宣教師によって、米国のフレーベルの教育思想および進歩主義教育思想が直接導入されていたことが明らかとなっている。本研究は、当時の米国の幼稚園の音楽活動の状況および幼稚園教員養成との関わりに着目し、日本のキリスト教系幼稚園における音楽活動において米国の教育思想がいかなる形で取り入れられたのかを考察することにより、当時のキリスト教系幼稚園における音楽活動の役割を解明しようとするものである。</p> <p>論文は、序章および第1章から第8章、終章で構成されている。</p> <p>序章では研究の目的、先行研究の検討、研究の方法について述べられている。</p> <p>第1章では、19-20世紀転換期の米国の幼稚園における音楽活動について、歌唱のみでなく身体表現、創作などの活動が取り入れられ、これらの活動を実践できる幼稚園教員の音楽能力向上が課題となっていたことが示されている。</p> <p>第2章では、19-20世紀転換期のコロンビア大学ティーチャーズ・カレッジおよびシカゴ大学幼稚園教育コースにおける幼稚園教員養成の内容を考察し、この時期の授業がフレーベルの教育思想を基盤とした内容から進歩主義教育思想を重視する内容へ移行していたこと、それに呼応する形で幼稚園教員養成における音楽授業に創造性の育成を目的とした活動が導入されていたことが明らかにされている。</p> <p>第3章では、国際幼稚園連盟（International Kindergarten Union, 以下 IKU）が刊行した幼稚園の標準カリキュラムに焦点をあて、音楽領域では創造性および社会性を育成するために創作および身体表現が重視されており、第1,2章で考察したこれまでの幼稚園の音楽活動に関する取り組みが標準カリキュラムとして結実したことが指摘されている。</p> <p>第4章では、19-20世紀転換期における日本のキリスト教系幼稚園とキリスト教以外の幼稚園における音楽活動について、楽曲分析によりその相違点が示されている。</p> <p>第5章では、神戸の頌栄保姆伝習所において編纂された曲集に米国の曲が使用され、フレーベルの教育思想が歌詞および楽曲の構成に反映され、幼稚園における音楽活動の役割</p>			

として自然との調和および秩序を感得することを志向していた点が明示された。

第6章では、広島女学校附属幼稚保姆師範科が編纂した曲集において、宣教師の母国での学びを基軸に、米国の曲を用いて創作および身体表現をとおして自立心および創造性を育成する役割が音楽活動に付されていたことが明らかにされている。

第7章では、函館の遺愛幼稚園において、頌栄、広島女学校、および日本のキリスト教系幼稚園の宣教師によって結成された日本幼稚園連盟（Japan Kindergarten Union, 以下JKU）で編纂された曲集を用い、米国の曲を通して本幼稚園における音楽活動が秩序を重んじた内容から主体的・創造的な能力育成を志向する内容へと変化していたことが示されている。

第8章では、JKUの音楽活動について、IKU等から米国の幼稚園の音楽活動に関する情報を取り入れ、他者と協同した創作および身体表現により、自己認識を深め他者と共生することが重要視されていたと論じられている。

終章では、以上を総括し、19世紀末から20世紀初期の日本のキリスト教系幼稚園における音楽活動の特質が提示されている。当時の日本のキリスト教系幼稚園では、米国から来日した宣教師が主体となり、キリスト教信仰を基盤とすることでフレーベルの教育思想を神との関わりのなかで理解したうえで、米国の新しい教育思想を円滑に取り込んだ。このことが、当時の音楽活動における自立心および他者とのつながりを意識した自由な創造的表現、および身体表現を実現可能とすることに大きな役割を果たしたこと、およびこれらの活動が自己表現および他者理解にとどまらず、自己を認識することと結びつけられていた点に特質を見出している。

本論文は、次の3点から高く評価できる。

第1に、これまでの先行研究ではなされていなかった、19-20世紀転換期の米国の幼稚園および幼稚園教員養成校における音楽活動に関する史料を詳細に分析し、日本のキリスト教系幼稚園の音楽活動との関わりについて考察している点である。日本のキリスト教系幼稚園において、米国の楽曲を用いて創造性および自己認識を醸成する音楽活動が実施されていたことを明示し、日本のキリスト教以外の幼稚園における音楽活動との相違点に関する新たな知見を提供することができた点に、大きな価値が認められる。

第2に、19-20世紀転換期において、フレーベルの教育思想および進歩主義教育思想が幼稚園の音楽活動の内容および方法にいかんにか反映されていたかを明らかにした点である。教育理念を体現するために、幼稚園の音楽活動において、歌詞、音楽構造、および身体表現を関連づける方法を詳細に描きだし、幼児教育における音楽活動の価値を提示した点は、現在の幼児教育に示唆を与える内容として意義のあるものといえる。

第3に、19世紀末から20世紀初期の米国および日本のキリスト教系幼稚園で音楽活動を行ううえで、幼稚園教員に必要とされた音楽的能力を明確にし、その指導方法が明示された点である。現在の保育者養成につながる音楽活動の指導方法が提示されたことは、本論文独自の成果といえる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和3年4月9日